

令和3年市長年頭あいさつ

令和3年1月4日

市長 中原 八一

令和3年の新しい年を迎えました。皆さん、明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく申し上げます。

さて、例年ですと、仕事始めは心新たな新年の始まりで、心地よい緊張感の中でこの場を迎えますが、今年は、昨年の年末から、全国的に新型コロナウイルスが収まらずに拡がっていることで、先行きの見えない年明けとなりました。

市民病院、保健衛生部、また市内協力医療機関において、正月休み返上で新型コロナウイルス感染症の対応にあたっていただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

去年は、新型コロナウイルス感染症との闘いに明け暮れた一年になりました。各部、各区役所においては、感染拡大防止対策と社会経済活動の維持回復に、全力で取り組んでいただき、改めて感謝申し上げます。

しかし、今なお新型コロナウイルス感染症の拡大による影響は続いており、GOTO トラベルの全国一時休止や、本県においても警報が発令されるなど、市民の間には感染症への不安や閉塞感が覆っております。

引き続き、本市として感染拡大防止策を講じながら、経済社会活動の両立に向け、全力で取り組む必要があります。

また一方、このような困難な時だからこそ、市民の皆様に対し、本市の明るい未来を示していかなければなりません。

新型コロナウイルス感染症は、大都市圏への人口集中によるリスクを顕在化させ、多くの方が働き方や暮らし方を見つめ直し始めております。その結果、これまで以上に地方への関心が高まっています。

そうした中、本市は「食」や「農」といった強みを最大限生かし、地域外か

ら稼ぎ、地域内で循環されるよう、本市の経済活性化を図ってまいります。

また、現在大きく変わろうとする新潟駅、万代、古町をつなぐ都心エリア「にいがた2km」を活性化し、人・モノ・情報が集まる「稼げる都心」を実現させ、本市の拠点性を高めてまいりたいと考えています。

ポストコロナ社会を迎えている中、田園地帯と調和する本市の魅力を活かしたまちづくりを進め、「暮らしやすい」「訪れたい」「ビジネスを展開する」まちとして、本市が「選ばれる新潟」となるよう取り組んでまいります。

一方で、コロナ禍の影響により、市税等収入の大幅な減少は確実です。新年度予算編成にあたっては、可能な限り財源の確保に努め、従来型の社会経済活動を前提とした事業を見直し、集中改革プランの改革効果を積み増すことで、財政健全化を着実にやり遂げ、持続可能な行財政運営が行えるよう体質改善を図ってまいります。

状況変化は激しく、将来を見通すことが困難な今日にあっては、これまでの市役所の常識では通用しないことも多く出てきます。縦割りや前例踏襲に固執することなくスピード感を持って対応にあたらなければなりません。職員の皆さん一人一人が、市民目線に立ち、課題解決に向け、迅速果敢に取り組みを進めていただくようお願いします。

昨年10月、本市職員が官製談合に関わる疑いで逮捕、起訴される事件が発生したことは極めて残念なことでした。この事件が市役所内外に与えた影響は大きく、市民の皆様の信頼を大きく裏切るものでした。

再びこのような事件を起こしてはならないとの強い決意のもと、昨年取りまとめた再発防止策を、今年には実行に移す重要な年となります。組織としてこの事件を猛省し、一日も早い信頼回復に向け、市役所一丸となり職務に励んでいく必要があります。

最後に、市役所組織は、今日のコロナ禍であっても決して倒れず、市民の皆様のために働く存在でなければなりません。

そのためには市職員の皆さんの健康が何より大事です。ワークライフバランスを意識し、仕事と家庭の充実を図りつつ、今年一年、市役所一丸となり、市民のために働いてまいりましょう。

以上、私の年頭のあいさつといたします。